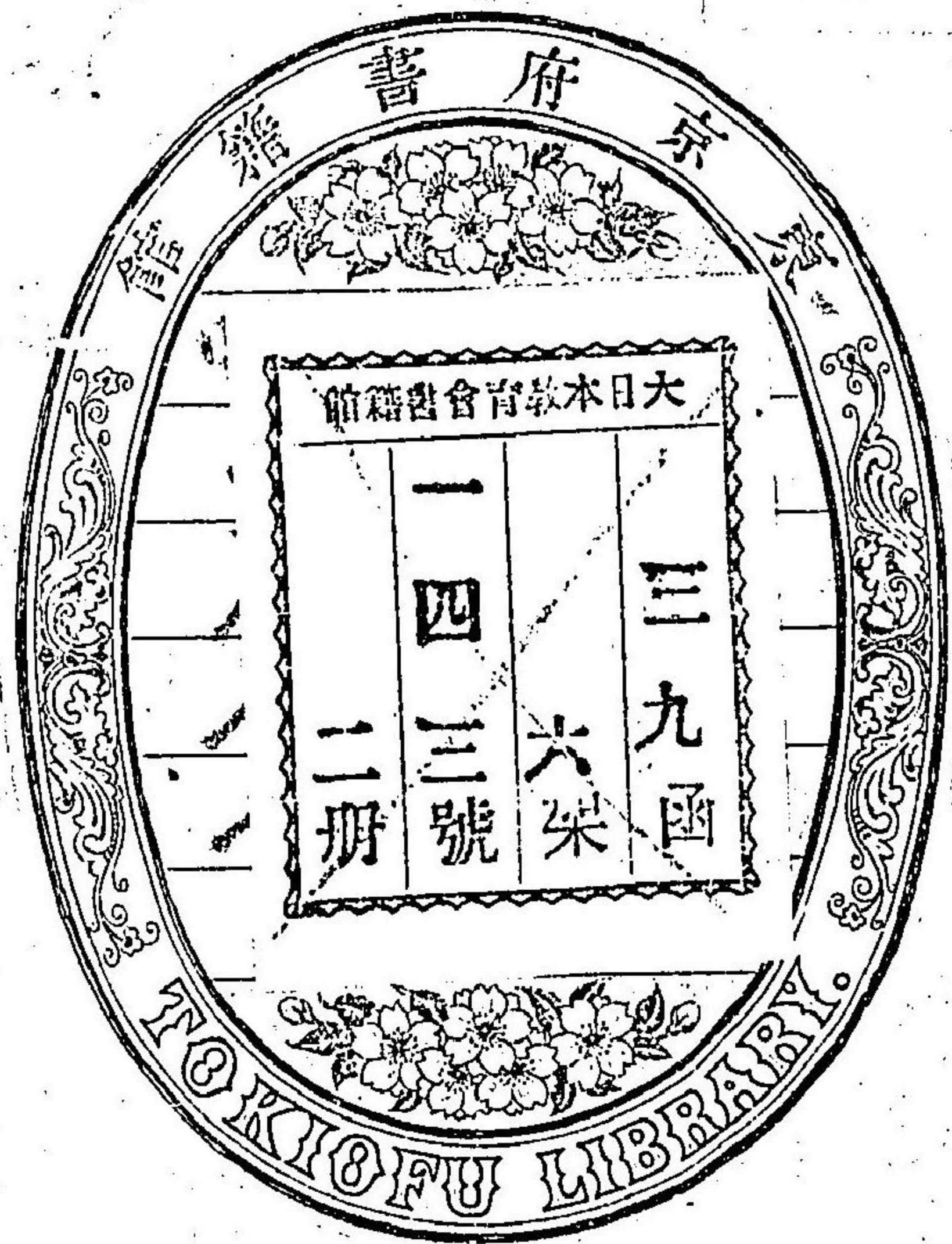


初學文話

藤田久道著

卷之上



特 43-716

081367-001-5

特43-716

初学文話

藤田 久道 / 著

上

M13

DAC-5979



藤田久道著

初學夾話

明治十三年
一月出版
耕文舎藏版

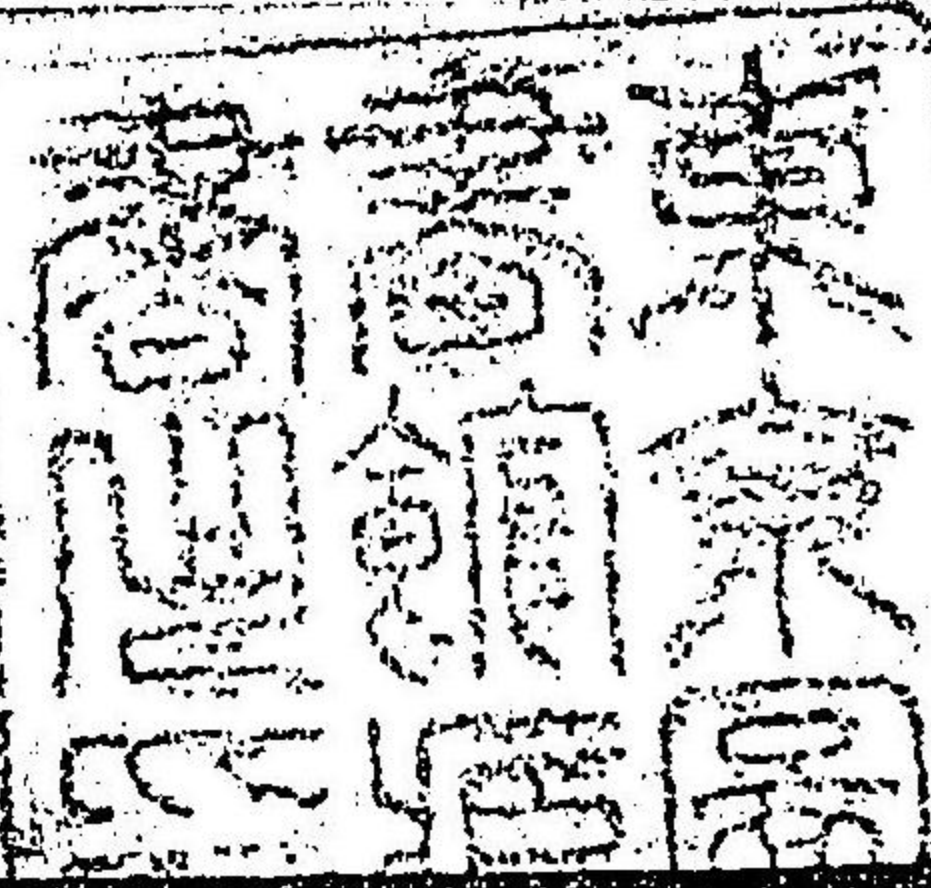
叙

題志

物有本末。事有終始。此又
之道。何物不然。頃藤田君
甫。指和漢簡易篇。專以為
梁。補加文體。則字之法。以
為極。在為深。類。至。極。構。已

特43
716

Toku



叙

解

物有本末。事有終始。此又
之道。何獨不然。頃藤田
甫。指和漢簡易篇章。以為
梁。稱如文體。則字之法。以
為樞。在為藻。類。至。結。構。已

Toku

藤田人道者

初學天

月...

力學

字

井...

TOSHIO

煥然可親者。名曰初學。
之德。微存於心。愛而聞之。
則豁然從之。如源泉。推者
害病其竭哉。余試觀今之
學文者。其身心而趨焉遠。
是猶心室而之內。有夢

tokio

岐之學之難。為難濟之。不
如從以誘。如以誘也。沈休
文曰。作文之法。當從之。多
易見事。一也。多讀字。二也。
多補讀。三也。謂此著之意。
洪範於此。在讀志。出造

古可先。學科而道。遂老於
古。今之海。亦能難也。

明法中。自十午月

名陽增白負



題言

千古之人。而意思蕭散焉。文家之宗。而若忘若
迷焉。文何容易。今既曰不容易。旋或說不難。何
其言之不一。曰才有大小。文有精粗。小與精不
易。大與粗不難。所以言之不一。蓋為是也。
先輩所為。筌蹄其筴。世不乏。而大都皆在蒙生
之袖。何待子之贅為。而猶且贅引之者何。不似
笠上戴笠乎。曰。其然。雖然鄙語所謂。三年遺負
兒者。世亦不少。余恐其書或不在于袖。而在于

閣在於閣而塵且封之。雖有如無。方後之戴笠。始知前之有笠。則閣上塵破矣。是豈無裨益乎。以無用為用。乃得受用。此語信然。

引之贅之。似其無不可矣。往々異言乎其書何如。曰。人不能無過。說不能無遺。其善者取為法。不善者舉為戒。固皆益於我。况乎參考異同。校定紕繆。自亦一學也。則亦庸何傷焉。

明治十二年十二月

言梁 藤久道顯甫識

初學文話卷之上

藤田久道 著

大凡文章ト云フ者何等ノ用アリテ之ヲ作スマヤ文章ハ經國ノ大業不朽ノ盛事ナリ蓋シ生民ヨリ以來物アレハ名アリ名アレハ文アリ文アレハ章アリ易曰觀乎天文以察時變觀乎人文以化成天下是文章ノ根原ナリ伏羲氏起リテ王タルニ及ンテ書契ヲ造リテ以テ結繩ノ政ニ代フ而シテ天下ノ事理尽ク文字ニ歸セリサレハ上ハ墳典丘索歷代ノ憲章史筆ヨリ下ハ稗官野乘及

ヒ平常ノ往復言語ニ至ルマテ皆文章ニヨリテ
 其用ヲ為サルハナレ是ニ由テ之ヲ觀ル、人文運
 隆起ノ今日ニ遭フテ猶文章ヲ知ラザル者將何
 ヲ以テカ天地ノ間ニ立ツコトヲ得ンヤ
 初學文章ヲ學ハントスルニ種ヤノ心得アリ凡
 文章無量ノ深味アリテ、畢竟其妙ヲ究ムルニ至
 テハ、口得テ傳フ可ラス、耳得テ聞ク可ラス只其
 心ニ自得スルニ在ルノミ師モ以テ弟子ニ教ユ
 ル事能ハス、父モ以テ子ニ傳フル事能ハス、去レ
 ハイカハカリ善師友アリトテモ、篤ク自ラ心ヲ

用キテ文章ニ從事セザレハ、終身文ヲ書ク事ハ
 能フマレ
 文章モト各ソノ心術ニ出ツ、是レソノ師教ヘ父
 傳ヘ、口辨シ耳聞ク可ラサル所以ナリ、岳武穆ノ
 所謂ル運用ノ妙一心ニ存スルト云フ者、文章ニ
 於テ亦云フヘシ
 文章ヲ學フノ方、博ク古書ヲ讀ム、多ク古人ノ文
 ヲ味ヒ、尋思推究シテ、其中ヨリシテ文法ヲ悟リ
 得ルニ在リ、是レ一大捷徑ナリ、清少納言カ枕ノ
 草紙ニ遠クシテ近キ者アリト云レタリ、予此法

ニ於テ亦云フ
 カクハカリイハミ、文章極ノテ難カシキ物ノヨ
 ウナレトモ左ニハアラス、凡ソ言語ト文章ト事
 ハ異ナレ氏意ハ一ツナリ、吾モ人モ大方平常ノ
 言語ハ何事ニ限ラス人ニ會得シ聞取ラル、ヨ
 ウニ口ニ載セテ物語ル^{ラキ}成ルナリ、文章亦其意
 思ノ人ニ會得シ分ルヨウニ書取ルマデニテ畢
 竟口ニ載スルト筆ニ載スルトノ差ヒアルノミ、
 サレド平常言語ハ我が口ニ熟シタル俗語ニテ、
 文章ハ我カ筆ニ未タ熟セサル雅言ナレハ、斯ニ

一ツ雅俗熟否ノ別チアリ、此俗語ヲ取テ彼ノ雅
 言ニハメル^トヲ知ラス熟サズ故ニ、我が意思人
 俗語ノ口ニハ載スレ氏、雅言ノ文ニハ載スルト
 ノ成ヌナリ、今且ツ初學ノ為メニ、其極メテ淺近
 ナル事ヲ舉ケテ、文章別段ニ難カシキ事ナラス、
 誰シモ作りテ、作り得ラル、事ヲ知ラシメテ聊
 カ入手ノ端ト為スヘシ
 文章ニ和漢ノ別アル、漢文ノ事後ニ言フヘシ、拙
 堂先生カ和文ノ体制ヲ論シテ、其ノ凡ソ序ト云
 記ト云論ト云賦ト云ナト、既ニ漢文ノ題目ヲ用

ユレハ、文字ト假字トノ別コツアレ、ヤハリ漢文ノ体裁ノミト云ハレタリ、此レ信トニ通論ナリ然レモ彼ト我ト、山海萬里ヲ隔タテ、言語宜シキヲ異ニスレハ、辞ハヲ属スルニ方リテ、語脉ノ續キ字句ノ布置前後上下、態度緩急、各異ナル所口アルナリ、故ニ初學モシ和文ヲ作ラントスルニ和語ヲ取テ一々漢文法ニ擬セントスルキハ、所謂柱ニ膠シテ琴ヲ調ブルカ如キアラシ、唯其体裁ノ原ク所口ニ至ツテハ、固ヨリ拙堂先生ノ言ニ外ナラサルナリ

和文ノ体右ノ外ニ又種々アリ先ツ雅文アリ俗文アリ、雅文ニ雅文ノ体アリ、俗文ニ俗文ノ体アリ、其外狂文ハ狂文俳諧文ハ俳諧文ト、各ソノ体裁同シカラヌナリ、又小説体ノ文アリ翻譯体ノ文アリ又今ノ世ニ行ハル、片假字文ト云フモノハ、全ク漢文ヘカナヲ交ヘテ書キ下レタル程ノモノナリ、凡ソ文章先ツ能クソノ体裁ヲ知ルヲ肝要トナス

初學和文ヲ綴ラント思ハ、雅文ナレハ、先ツ多ク源氏伊勢ナト云フ物語類ノ古書ヲ取テ、何遍

モ讀ムヘシ其ウチ面白キ文ノ我が意ニ適シタル處ヲハ、繰リ返シ讀ミ或ハ抄録ナドシテ記臆シ置キ其上ニモ源氏ハ源氏、伊勢ハ伊勢、狹衣ハ狹衣、各体裁アルナレハ、其中據リテ書ント思フ体裁ノ書ヲ取テ、更ニ熟讀シタルウヘ、ソレソレノ書ヲ皆取収ム、然ル後心ヲ靜ニシ、我が書ント思フ全体ノ旨趣ヲ胸中ニ案排シ、サテ筆ヲ取ルニ及シテ、一意ニサテサテ書キ了ルヨロニ為スヘシ、筆ヲ取リカケテ種々ニ思フ變へ或ハ他書ナドヲ抽トリ看ルハ、文思紊レテ甚ダアレハ、

然ル片ハ書タル文モ、ツキハナレノシタル雜駁ノ文出来テ名ノ付ケラレヌモノニ成ルナリ、此レハ雅文ニ限ラス、何文ヲ書クニモ皆同シ事ナリ、狂文ナラハ狂文、序假字文ハ序假字文、各ソレソレノ書ヲ取テ、此クノ如ク為テ作ルヘシ、雅文ヲ書クニ、古書ノ讀ムヘキモノハ

源氏物語	伊勢物語	大和物語
榮花物語	竹取物語	土佐日記
蜻蛉日記	狹衣草紙	枕ノ草紙ナト

皆是レ古ヘノ名文ナリ、コノ外今昔物語

徒然艸 平家物語 吉野拾遺 十訓鈔

宇治拾遺物語等許多アリ

大約右ノ如ク其書ント思フ文章ニヨリソレソ
レノ書ニ就キテ其体裁文法等ヲ熟知シ言語ノ
模様ヲ我胸ノウチニ染ミコマセ持ツ様ニ為ス
ヘシ漁村先生モ文ハ古人ノ語氣ヲ學フナリサ
レハ文ヲ作ラントスルニハ先ツ古人ノ文集或
ハ選本等ニ就キテ數度クリカヘシテ熟讀玩味
シソノ文勢語路ヲシテ自然我ニ移リテ口ニ騰
リ心ニウカミテ吾カ心ト古人ノ文ト一致ナラ

レハヘシ文ノ巧拙ハ全ク古人ノ聲響ヲ學ヒ得
ルト得サルトニ在リト云レタリ
雅文ハ昔ヨリ歌文ニ用キ來レル詞ヲ以テ書キ
タルニテ其詞今ハハヤ古言ト成リタレハ俗言
トハ大ニタカヒアリテ知リ易カラズ故ニ間俗
言ニヒカレテ用キ誤マルトアリ總テ雅文中ニ
ハ一言半句タリ氏俗語ノ雅ハルヲ忌ム凡ソ雅
俗稱ヲ異ニスルモノハ言フヲマタス依同稱ニ
シテ異意ナルモノアリ能ク心シテ用キ誤マラ
ヌ様ニナスヘシ喻ヘハ雅言ニ何[○]う[○]ら[○]さ[○]ゆ[○]ト云

フハ、苟且ノ事ナルヲ、俗ハ明白ノ事ニ思ヒ誤マ
 レリ、又やさしト云フハ、ハツカレキ意ナルヲ、俗
 愛ラシキトニ用ユを。ト云フハ、オモシロキ
 意ナルヲ、俗笑フハキトニ用ユな。ト云フハ、ヤ
 ハリト云フ意ナルヲ、俗マダト云フトニ用ユ、其
 外ま。ハ可ノ意め。ハケツカリナル意也。
 くり。みト云フハ、ユツタリノ意ニ非ス、不意ニ
 ト云フ意ナル等ノ類、許多アルナリ
 雅文ノ中ニモ亦其書ニヨリテ、各体裁同シカラ
 ス、今一ツニツヲ畧載ス、大和物語ノ文

聖大貳すともガ内をさの時、ういの使ふは
小野好古 融友 進討使
 是イ少將ふくさうさう、お不中歩ふもつさう
 四位も味ぬへき年ふわうけま、むつきのか
正月 加南
 さうむらひはとやうあうお目えをれと、系よりく
屬
 とも人もおきくまらん、ま、ゆる人ふとへどあふあう
正レクナリ 四位
 ともともり、ゆる人もあふまもり、あつたあること
必定
 いういまきんとあふ目とあ、系のさう、あふ、近江さ
通信
 公忠のきみの文とあふ、さうきさうさう、いとやう
 うまう、あうけい、これ、さう、の事、もかき、い、さ
 て、ありあとかき、あ、さ、さ、け、さ、せ、あ、あ

まごが牙城、河を渡り、やいばんとおんひり、これを
とてかきりたると事、くそあんやまける、四位ふぢ、ぬ
よ、河ふちあき、かきむむありき
如比

徒然草ノ文

昔をさうふ月、ハくまあまを乃く、つさのうのう、るふ向
ひ、月をさひふれ、こりい喜の、ゆく忘あ、ぬ、あはあ
ハまふ、なふけふ、ささぬ、へ、日との、指、ちり、あはさ
たる、庭あ、さ、え、お、お、あ、れ、う、れ、お、と、焚、か、ま、あ、も、
花、見、ふ、は、り、け、り、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
不往 在

ろくさうハ以下

上ノ大和物語ハ叙事ナリ、コレハ議論ニ属ス
伊勢物語ノ文

上 形、おまじ、い、むき、い、み、と、ま、つ、さ、の、お、の、中、ふ
いと、お、お、さ、あ、る、河、あ、り、そ、れ、を、ま、え、と、河、と、い、お、そ、河
の、日、と、ま、よ、む、れ、あ、ら、ち、み、屋、ま、へ、限、あ、る、ま、ま、ま、ま、
と、つ、下
畧

土佐日記ノ文

上 む、う、あ、ぐ、の、あ、ま、ま、と、い、ひ、る、ひ、と、か、唐、一、ふ、れ、
畧 阿部仲麻呂
り、け、り、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、

ひとむまのそかむけー、われむーてかーこのころらう
とほろりあーくー

古今集ノ序

畧かくてそ、花をりやとをふ、かみ、花を阿はまてた
とりたしふ心こし、花あやさめくふなりふも、まきま
も、いそぐあーととらまをしまし、年月をそく入言
まふもふもあちりひちりなり、何ぞやたあひく
中々おひのなまるとふ、あの高もくくけとくたきー

見ルヘシ、以上ノ文トテモ、各ソノ書ソノ書ノ体
製アリテ、文格自然ニ同ジカラス、精シクハソレ

ソレノ書ヲ取テ玩味シ知ルベシ、

雅文ノ外俳諧文及ビ狂文小説雜文等ニ至リテ
ハ、モト遊戯三昧ノ事ニテ言程ニモ非ス、サレハ
春臺先生モ俳諧ハ極メテ拙ナキモノトテ貶サ
レタレト、シカシ此レトテモ、亦文詞ノ一端ニ非
スト云フ可ラス、蛻岩先生ノ行述ニモ、有韻國雅
ノエミモ、猶オ象ドル可ラサルノ景情アリテ、俳
諧ハ乃チ然ラス、能ク俗ヲ雅ニ鑄シ、腐ヲ新ニ轉
ス、亦一種ノ風流奎壁ノ餘彩ト謂フベキカナト
云ヘリ、サレハ遊戯ノ筆ニ在天或ヒハ偶之レヲ

為スモ、亦風雅ニ害ナカルヘシ、故ニ其書ノ一ツ
 ニツヲ載ス狂文ト云フハ天明ノコロ、蜀山人ナ
 トノ專ラモテアソヒタル滑稽善謔ノ文ナリ、俳
 諧文ハ芭蕉ノ祖述セシヨリ以來盛シニ流行シ
 ケリ、歌書ニ俳諧体アリ、又古クヨリ連歌ト云フ
 アリ、コレ狂歌及ヒ俳諧纏句ノ本ナリ、其趣キ全
 ク詩ト異ナラス、又狂文ト俳諧文トハ、其体格ヲ
 言ヘハ、亦大ニ同シカラサル所アルナリ
 狂文ナト書ベキ用ニハ

古今著聞集

和漢朗詠集

梁塵愚案抄

俗說辨

曾呂利狂歌新

狂歌詞海

岐岨日記

田舎莊子

都莊子

昔々春秋

江戸繁昌記

大坂繁昌誌

四方のあり

風来六部集

四方留拍

心の種

岡持家集

萬載集

萬紫千紅

假字世説

飲食狂歌合業

其外狂文ヲ集メタル書許多アリ、何レモ手近ノ
 モノヲ取テ看ハ事足ルヘシ

俳諧文ハ

風俗文選

李撰文選

俳諧新式

七部集

玄峰集

增山井

俳諧歳事記

鶉衣等アリ

又小説文ト云フ者ハモト支那小説ヨリ出キク
 リタルモノナレト、彼ノ國ニテハ唯雅俗ノ二ツ
 アルニ過サレ氏我邦ノ文ハ、雅俗ニ和漢古今ノ
 六ツヲ打混セタル文章ナレハ、其エミヲ極ムル
 ニ至リテハ、俳諧文ナドヨリハ為シ易カラス、尤
 モ廣ク和漢ヲ涉獵セザルヘカラズ世ニ行ハル
 ル小説ノ書、八犬傳胡蝶物語、醉菩提、弓張月ナト、
 數多アリテ、皆人ノ知ル所ナリ、蓋シ小説戯文

ヲ作ラハ、須ラク虚實相半バシテ為ルヘシ、亦情
 景其極ニ造リテ止ムヲ要ス、必スソノ有無ヲ問
 ハス、近コロ小説ヲ作ルニ、稍恠誕ノトニ涉レハ
 人便チ其不經ナルヲ笑フ、必ス事々之ヲ正史ニ
 考ヘ年月合ハズ、姓字同シカラサレハ作ラヌ、此
 ノ如キハ史傳ヲ看テ足レリ、何ソ名ケテ戯トナ
 サント謝在杭云ヘリ、コレ小説ノ本色ナリ、且ツ
 マタ書ヲ讀ムモノ博ク稗官諸家ヲ覽サレハ梁
 肉ヲ啖ツテ海錯ヲ棄テ、堂皇ニ坐シテ臺沼ヲ廢
 スルカ如シ、俗モ亦甚シト云ヘリ、今學者ヤ、モ

スレハ其事ヲ高尚ニシテ、稗官小説ナトハ覽ルニ足ラスト云フ、固ナル哉言ヤ、多識ノ佐ケ逸興ノ具君子固ヨリコヽニ廢セス、況ヤ文章ニ志サスモノオヤ、サレハ棋園先生モ、小説傳奇ノ文ハ、總別人事ノ細カニシテ、奇ナル所口ノ情態ヲ、巧ミニ書キ取リタルモノナレハ、文ノ自由ヲ得ニト思ハ、此ノ傳奇ノ文体ニモ筆ノ働ク下ニ非サレハ、正文ニテモ手ノキカヌ下アルヘシト云ヘリ、然ルコトアルナリ、多ク小説ノ書ヲ取テ者ハ、必ラス知ル由アラシ

小説ノ書ハ

水滸傳	宣和遺事	今古奇觀
三國演義	飛燕外傳	封神演義
西京雜記	虞初新志	虞初續編
西廂記	杜騙新書	西游記
金瓶梅	剪燈新話	聊齋志異
平山冷燕	情史	兩交婚傳
知囊	太平廣記	酉陽雜俎ナト

何レモ廣ク省ルヲヨシトス、凡ソ世ノ小説家者流ト稱スル者大方ハ繪イリ草紙ナトヲ只管ニ

讀ミ覺ヘタルノミニテ、文法体式等ハ茫乎トシテ曉ラス、舶來ノ小説譯ナキ者ニ至テハ終ニ讀ミ得サル者マ、多シ、サレト尚ホ、此等ノ筆ニテ綴リタル戯文モ、世ニ少ナカラサルヘシ、ソレラハ婦人女兒ノ目ニモ觀ルニ堪ヘサルナリ又片假字文ト云フハ、前ニモ云フ通り近世盛ニ行ハレテ、誰シモ書クナレハ、今更ニ云フニ及ハス、別ニ体裁法式ト云程ニモナキナリ、シカレ其原ハ漢文ヲ譯シタルニテ、其語路モ大概漢文ノ語路ニテ、多ク漢語熟字サヘ用ヒタルナレ

ハ、所詮漢文ヲ學フニ如クハナレ、サレハ片假字文トテ別ニ体裁法式アリトスルハ辟カ事ナリ、体裁法式ヲ論スレハ漢文ヨリ外ナレ、或ヒハ片假字文ハ其原漢文ニ由ルナレハ、仍ホ体裁法式等モ具サニ論セザル可ラストテ、章法、句法、抑揚、頓坐、起伏、閑闕等ノマテヲ正シ責ルモノアリ、ソレモサル事ニテ、理ナキニハ非サレズ、斯等ノ沙汰ハ文章粗マシ習熟シテ後ノ事ニテ還カニ初學ノ者ニ求ムヘキ事ニ非ス、且ツ其片假字文ヲ取テコレヲノ法ヲ論シ附クルモノハ、本ト我

カ胸中ニ一ツ漢文ト云フ象ヲ立テ置キテ論ス
 ルヲナルヲソレヲ唯片假字文上ニノミ於テ求
 ムルキハ所謂ル靴ヲ隔テ、痒キヲ搔クニテ又
 且ツ莊子カ所謂ル卵ヲ見テ時夜スルヲ求メ、彈
 ヲ見テ鶡ノ炙^{アツ}モノヲ求ムルト云フノ類ニ近カ
 ルヘシ、サレハ斯等ノ法ハ、畢竟漢文ヲ取テ論ス
 ルニ如クハナク、亦漢文ニ就テ會得スルニ如ク
 ハナキナリ記ニ曰ク始テ馬ヲ駕スル者ハ之ヲ
 及スト、習ヒノ漸アル驟カニシテ得ヘキニ非ス、
 初學ノ士亦宜シク及馬ノ法ヲ察スヘシ

漢文ニ至リテハ、四書五經等ハ人々皆通誦スル
 所ナレハ言フニ及ハス、其外古書ノ類

左氏傳

史記

漢書

國語

荀子

老子

戰國策

莊子

列子

呂氏春秋

淮南子

韓非子

說苑

新序

楚辭

公羊傳

穀梁傳

管子

爾雅

晏子春秋等アリ、又八家文、文

選、文章軌範等ノ文集ノ類、及ヒ十八史畧、易知錄、

綱鑑鋪資治通鑑等ノ史類、此外雜集ノ類何レモ博ク看ルヲ厭ハス、字書ハ字典、字彙正字通ナト、ヨシ、文体ヲ集メ論シタルモノハ、文體明辨ナリ先哲、初學作文ノ用ニ助字、虛字、文法等ヲ譯述シ置レタル者ハ

- 作文率 作文志毅 讀書作文譜
- 譯文筌蹄 初學文談 文語解
- 用字格 譯文須知 助字鵠
- 助字譯通 和讀要領 左傳助字法
- 史記助字法 虛字解 實字解

助語審象 助字詳解 漁村文話等ノ

類數多アリ、此等ヲ善トス以上總テ書ノ目ハ唯ルニ非ス

漢文ヲ書キ習フニハ、先ツ復文ヲ為スニ如クハナシ、如何ナル文ヲ書ンニモ、最初ハ闇ヲ行ク如ク、筆ヲ下スヘキ方ヲ知ラス、ユヘニ此復文ヲ為テ、漸ク文字ノオキカク語路ノ模様ヲ覺エタル上ハ、又譯文ヲ為スカヨキナリ復文ノ法ハ作レ、今復贅セズ復文ヲ為ニハ習文録ヨシ譯文モ初メ八成タケ短カキ紀事文ヲ取テ、只管

ニ文字ヲ居習フヘシ、譯文モ大抵ニ為シタル上、
 追々筆ノ働ラキ出ルニ隨テハ、又短カキ紀事文
 カ、或ハ尺牘文ナトヲ書キテ見ルモヨシ、トカク
 文ヲ書クニハ何遍モ修改スルヲ憚カルヘカラ
 ス、古人ノ大筆皆這裏ヨリ做シ得來ル、此レ作文
 第一ノ訣ナリ

尺牘ハ平常通用ノ手紙ニ言フ所口ノ事理ヲ取
 テ、漢文ニシテ言フマテナレハ、至ツテ為シ易キ
 ナリ、尺牘ノ書ハ歐蘇手簡ヲヨシトス、其他ハ尺
 牘雙魚、尺牘集要、尺牘彙書、片札鋪因、江湖尺牘等

ノ類數種アリ、又近來新刊ノ尺牘ノ書極メテ多
 シト聞ヌ、定メテ見ルヘキモノ有ルヘシ

尺牘ニ種々ノ体式アレバ、強カク拘ハラヌニ、大
 概ヲ用キテ書キテヨシ

尺牘ノ字面ハ、一種ノ体アリテ常ノ文トハ同シ
 カラサル所口アリ、トカク文字ノ使ヒ方ナト、常
 ノ文ヨリハヤスラカニ輕キトツカフヘシ

家書往來ノ類、人生日用ニ切ナル者ハ、文彩藻ヲ
 事トスヘカラス、唯情ニ近ク通曉シ易キヲ以テ
 主トナスヘシ、要スル意義ヲ曲盡スルニ在リ

短札請召ノ類情雅ニシテ事迫ナラサル者ハ隨
 分華研ヲ用キテ雅ニ書クヘシ、コレ亦詞人文士
 ノ逸致ナリ
 尺牘ニ用ユヘキ熟語ノ類、ソノ概畧ヲ左ニ挙ク、
 餘ハ類發シ知ルヘシ、總テ摘集語類ニ至テ、初学
 ノ徒トカクニ多キヲ貪ルハ益ナキナリ、幾万
 言ヲ拾ヒ集メタル者ヲ備ヘ置テモ、習熟セサレ
 ハ隻言半句モ我カ用ヲハ為サヌナリ、ヨシ僅々
 数十言ナリトモ、能ク熟服シテ我カ手ニ入ラハ
 其用實ニ餘リアルヘシ

候問魚書久瀾愁腸一日而九迴矣○音問久疎
 鬱結殊深○不暇修素少伸積悃○久疎音候中
 心快々以上平交ニ用○久未虔候情悃若積○
 稟候久疎○不暇修稟以上尊長ニ用○別瀾旬餘
 不晤○旬日違教○連日不面○拜別以來倏爾
 踰數月○尊堂叙別忽又月餘以上交○叩別未幾
 如隔數秋○拜違左右忽歲餘○久違顏範尊長
 ○思鄙吝復萌○時注念○心旌搖々○懷想
 故人○思切傾葵○心馳左右○思慕高風尊長
 ○起居綏吉○福祉百隆○興居日茂○新
 通用

社游嘉○起居動靜永膺多福○欣大慰鄙懷○
聊慰愚衷○不勝雀躍○以慰渴想○不勝欣榮○
○自愧慚無地○恐愧株守○抱歉無地○不肖
瑣陋○愛德同二天○深荷垂盼○叨蒙至愛○
忝辱通家○珍伏冀自愛○寒暑自珍○伏冀順
時愛玉○書臨頽不勝依依○臨楮馳湖○曷勝
依戀○臨稟不任悚慄○鑒統希原諒○万祈鑒
照○仰惟光照○伏惟寅亮不既○書復捧讀瑤章
○拜領琅函過荷獎譽○正思慕間忽接華箋○
時萬象更新○青陽布令○淑氣迎入○歲律更

新○正朔初頒○梅萼呈祥○燕語翱翔○花雨
弄晴○風光似綉○惠風布暖○芳林漸麗○滿
地胭脂○柳烟初度○鳥語調笙○林花綴錦○
酒煮青梅以上○翠竹參雲○青黃掃柿○綠楊
飛雪○赤帝促裝○荷錢泛沼○梅雨霏々○雨
自南來○竹徑風涼○榴火如烟○炎暑方半○
蟬噪薰風○綠荷香遠○柳岸風清○庭院生香
○珠蘭時馥以上○秋開玉宇○金風漸長○風
露生涼○蟾光正滿○桂魄澄空○桂蓋生香○
珠凝白露○東籬菊綻○黃花露浥○江楓簇錦

○蓉開江渚○万宝告成以上○霜出成曉○青
 女司辰○平沙雁語○景属小春○寒牕點雪○
 凍硯呵冰○半牕梅月○一枕松風○一陽添線
 ○雪兆豐年○西山雪霽○東閣梅香○寒隨臘
 去以上

尺牘ノ十八体式ト云アリ、一ニ具体、二ニ称呼、三
 ニ開闕、四ニ瞻仰、五ニ伏惟、六ニ頌德、七ニ神相、八
 ニ起居、九ニ欣喜、十ニ自叙、十一ニ少稟、十二ニ叙
 事、十三ニ臨書、十四ニ時令、十五ニ即日、十六ニ保
 重、十七ニ祈亮、十八ニ結尾ナリ、又答書ノ十六式

具名称呼、瞻仰、辱書、伏惟、頌德、神相、起居、欣喜、自叙、
 入事、答候、即日、時令、保重、結尾ナリコレハ宜シキ
 ニ隨ヒ或ヒハ増減シ用ユルモ可ナレ尺サレテ
 用ナケレハ畧ス

短牘文例

與毛維瞻

蘇東坡

歲行盡矣、風雨凄然、紙牕竹屋、燈火青熒、時於此
 間、得少佳趣、無絲持獻、独享為愧、想當一笑也

慰黃文學

胡煥然

造化忌才、英雄大都遭蹶、蘇洛陽賈長沙、且然况

其下者哉、弟亦個中人也、故敢以此言進、雖然、益窮、益堅、乃是最第一著、工夫惟文圖之

與、猗蘭侯

物徂來

甚哉、暑之於人也、不啻傷人之氣體、亦能傷人之礼、裸身仰卧、兩脚柱天、彼是同爾、若教阮籍、見之、必謂竹林添一賢也、宋畫一幀、通典四本、附上、二幀、繫留案上、不盡

譯文ヲ為スニハ、徒然草、大平記、常山奇談、武將感狀記ナトノ類ヲ見合セ、其中ヨリヨキ者ヲ書ヌキ譯スヘシ、先輩云フ、原文中、甲冑ノ毛色ナトヲ

云タル無用ナル処ハ、情ヲツクレテ刪リ去リテ、大段ノ処ヲ書クヘシ、又拙堂先生云フ、初學ノ徒、國字ノ文ヲ譯スルニ、毎ニ語ヲ成サルヲ苦シム、蓋シ國字ノ文ハ、漢文ノ體製ト迥カニ同レカラズ、句ヲ逐ヒ段ヲ逐テ之ヲ為サハ、終ニ相類セズ、必ラス紀セント欲スル所ノ事ヲ以テ、冥思一過シテ、胸中ニ具ヘ、筆ヲ操テ原文ノ序次ニ拘ハラズ、煩ヲ除キ蕪ヲ刪リ、前後錯綜シテ、其宜シキヲ得レハ、則チ可ナリ、譯文一二例ヲ左ニ挙ク、譯文ノ法、作文率ニ精シ、同書ニ南郭先生ノ誤譯及ヒ

祖徠先生ノ紀事文等ノ事ヲ論シホケリ、又譯筌ノ卷首ニ譯準一則アリ、取リテ省ルヘシ、又紀貫之カ古今集ノ序ハ和文ノ傑出ナリ、卷末ニ真名序アリ、其文ヲ取テ照シ合セハ、譯準一則ヲ得ヘシ、然レコレハモト和文ノ方カ譯ニシテ、且其文極ノテ古雅ナレハ、其心ニテ省ルヘシ

ある者ハ野道風のうける、和漢朗詠集とて持りたりと、或人のお侍うけることハ侍りたるものも、四条大納言たるはまじき物なる風うへんこと、時代はたつひ侍りん、おつたなく、くせいに

ひぐれハ、まじいこと、世ホあり、くま物ハ侍りたるれ、くま物ハ侍りたる

一癡人、珍襲朗詠集、稱是野道風、筆或問此集

四條亞相所選野公、乃為數世先輩得無年時

相睽邪、其人曰、是乃所以為珍也、此文亦作文率ニ辨アリ

今畧

西大古、靜然上人、睡中、夢見、眉向く、涙、子、年、たけ、つる、若き、女、よ、い、内、裏、へ、ま、の、れ、と、り、け、と、西、園、寺、の、大、院、殿、あ、な、ま、り、と、あ、り、ま、き、お、と、く、信、仰、の、ま、ま、り、な、る、れ、に、後、の、御、供、あ、ま、と、つ、な、ら、な、る、の、よ、ら、ま、り、

ふみとやされたり、後々よむくたの、海すゝ老
さふむひも、毛をけりてをひうせと、比るもたう
とくふくふとく、四府くまふせられたりけり
徒然押

西大寺靜然上人、扶老而朝、白眉折腰、龍鍾甚
苦、西園内府側見、乃起敬曰、嗚呼尊宿哉、藤資
朝從傍謂曰、是徒年老耳、明日使人牽衰草、一
老杉遺内府曰、是可尊爾

一茶院の、中村、雪の、於小、ある、く、降りたり、る
頓、ち、を、さ、さ、せ、臨、ひ、も、雪、由、院、一、ま、り、る、

香爐峯のありさぬり、あんと御、ま、ま、れ、ハ、清
少、知、言、由、あ、あ、り、し、ふ、や、と、あ、く、て、は、藤、さ、し、ま
り、たり、ま、り、入、世、の、ま、ま、り、中、あ、り、た、め、一、ふ、り、ひ、は、り、

れ、多、宇治大納言物語

永延帝、雪後早坐、宮中、顧乃云、不知香爐峯、雪
奈何耳、宮人清氏默起、前褰御簾、帝賞其慧、而
有学

以上皆南郭先生ノ譯文ナリ、古今集ノ文次ニ
左ニ録ス、六歌人ノ体格ヲ叙タル條、拙堂先生曰
久、其品藻ノ妙、臨川王ノ世説ヨリ得來ル

僧正通昭へいふ乃ま備へえられともまこと少
 あんたごのいふふけりさうなとていふは
 ちんどうごうけうごうごうあかまの業平へえれ
 心あきく言葉さかたあめり花の色あてふ
 目ひ跡まらごうごう文屋の中ひてい言葉はた
 く名ふそのま備牙ふおりた、いもあま人のよ
 きまぬまごんごうごう宇治山の侍彦探ひ言
 葉くたごうごうてまめをりうたごうあかた、いも
 秋の月ごうごうのさよあてごうごうおのの
 所へ古くのとごうごうの流あふありれある

中うあきほようごういもまごうなごうあや色
 るああまごうごうはごうごうぬハごうあごうあれ
 来へ、大伴のままへそのまぬいごうごうたご
 位へるなま人の花のうけりなまめらごうごうし
 花山僧正尤得歌体然其詞華而少實如畫圖
 好女徒動人情在原中将之歌情有餘而詞不
 足如萎花雖少彩色而有薰香文琳巧詠物然
 其体迭俗如賈人之著鮮衣宇治山僧喜撰其
 詞華麗而首尾停滯如望秋月遇曉雲小野小
 町之歌古衣通姬之流也然艷而無氣力如病

婦之傳フカ華粉ワコ大友黑主歌古猿丸大夫之亞也
頗有逸興而体其鄙如田夫之息花前也

紕繆多キ文ナトヲ看テ私カニ刪定ヲ加ヘテ見
或ハ誤脱多キ者ハ考索シテ補正スルナト皆我
ニ益アルナリ試ニ不文ナル譯文一則ヲ左ニ
奉シ取テ改竄シテ見ルヘシニ水草小成ニ徒然草
ノ一章ヲ譯シタル文アリ

寺院の号はゆゑぬ茶つもの物少く名をけする事多
し此人のまことも亦此の事ありけりけりけり
けりありはてらふふく紫一や若をあらはんと

寺院之号萬物名状昔人少不求奇ニ惟真率不
類也間者叨欲顯其特ニ才好名之心而自矜尚
聞之良久余甚病諸人之称呼欲用奇字亦何
益矣庶事求奇事好異說者淺智下才之人必
所為也

右文章小成ノ譯文準則ヲ示シタル文ニテスヘ

テ七十五言、徹頭徹尾不成語ノ文ナリ、コレニテハ文章ニハナラス、同書ニソノ書ノ極メテ初学ニ鴻益アルヲ云テ、此ノ書ニヨリテ文ヲ綴ラハ、顛倒錯置ノ心ツカヒナレトアレトモ、右ノ譯文、始終ミナ顛倒錯置ナリ、サレハソノ書、作文ニ功驗アリトテ、コレホト即驗アルヲ、今マテ公行セサルハ、イカナル造化ノ吝嗇セシトヤト、満坐ノ人手ヲ拍テ、歡悦スルヲ限リナレナト云タル妄ト云フヘシ

文ノ体序記論說等種々ノ別アリト雖トモ之ヲ

要スルニ、叙事ト議論トノ二端ニ出ズコレハ是レ文章ノ大端ニシテ、和漢ノ別ナキモノナリ叙事ハ、事實ヲアリノマ、ニ述ヘ記スルナリ議論ハ、我カ意見ヲ述テ、物ノ理合ヲ言分ルナリ、サレハ叙事ハ實景ニテ、議論ハ虚想ナリ、初學先ツ紀事文ヨリ書キ習ヘシ、大典禪師ノ言未タ必ス然ラサルナリ大典禪師曰ク、叙事ハ實ニシテ、議論ハ虚ナリ、虚ナル者ハ及ホシ易ク、實ナル者ハ入り難シ、是レ或ヒハ然ラス、叙事ハ實ニテ議論ハ虚ナリ、虚ナ

ル者ハ想ヲ措キ難ク實ナル者ハ手ヲ着シ易シ、
 故ニ文ヲ作ルニハ先ツ叙事ヨリ着手スヘシ、其
 實ナル者既ニ手ニ入ラハ、其虚ナル者ハ隨テ來
 ラン、叙事且ツ未タ手ニ入ラサルニ、先ツ議論ヲ
 為ラン、一ヲ學フハ、猶オ未タ立テ能ハスレテ遽
 ニ歩ヲ學フカ如クナランカ、之レヲ構屋ニ譬フ
 ルニ、叙事ハ柱ナリ、議論ハ棟ナリ、柱未タ樹タズ、
 其レ何ヲ以テカ棟ヲ行ランヤ
 文章体制ヲ知ルヲ肝要トス、体制ニ數十ノ別アリ、
 今其崖畧ヲ載ス

序ハツイデト訓ス、物ノ次第ヲ附クルナリ序ハ
 舒也緒也ト注シテ、事理ノアラマシヲ舒ヘルナ
 リ、緒ハ線口ナリ、書物ニ序スル文、又人ヲ送リ人
 ヲ壽スル序文ナト、總テ序ニ大序アリ小序アリ、
 韻文アリ、散文アリ、又正体變体ノ別アリ、其外サ
 マサマノ体式アルナリ
 引モ亦序ノ一体ナリ、唐以前ハ餘リ此体見ヘス、
 大約序ト同シトニテ、稍其短簡ナルモノヲ引ト
 為ス

春夜宴桃李園序 送孟東野序 滕王閣序

此ハ四六ノ体ナリ

拙齊引ナドアリイッレ

モソレソレ古人ノ文ヲ取テ熟讀セハ、体裁自カラ知ラルヘシ

説ハトクト訓ス、ワケヲ言ヒ解クナリ、説ハ述也、誘也又解也ト注シテ、本題ノ義理ヲ己レノ意見ヲ述テ解キ明シ、人ヲ誘ヒキ諭シテ感發シ從ハシムルヲ云フ、陸氏カ文ノ賦ニモ説ハ燁燁ニシテ譎誑ニスト云ヘリ、説ト論トハ類似ナレトモ亦同シカラス是ニモ散文モアリ韻文モアリ、易經ノ説卦又説文ナト、皆説ト名クル者ナリ、韓文ノ

師説、蘓文ノ名二子説、其外稼説、愛蓮説ナト、大抵ハ散文多キナリ

論ハアケツロフト訓ス、言ニ從ヒ倫ノ省フクニ從フ字ナリ、倫ハ人倫倫理ナトノ倫ニテ、スゲダテナリ、釋名ニ論ハ倫也ト云ヒ、字書ニ議也辨也又紬繹討論スル也ト注ス、サレハ論トハ群言ヲスガタデヲシ、事由ヲ辨シ是非ヲ拆シテ、理ニ歸セシムルナリ、文章諸体ノ内、論文ノ用最モ廣シ政論、理論、史論、文論、ナド、種々ノ体アルナリ、樂志論、過秦論、非有先生論、王命論、東方

朔答客難此ハ設等ノ類

書ハ概シテ之ヲ言ハ諸ノ載籍皆書ナレ氏文ノ

一体ニシテハ簡牘ノ類ニテ親知往來問答ノ間

ニ用ル所ノモノヲ云フ書ハ舒也其言語ヲ舒ヘ

布テ簡牘ニ陳ル也小云ヘリ書ニ辞命ノ体アリ

議論ノ体アリ臣下ヨリ君上ニ上ツルヲ上書ト

云フ表奏疏ナド、大抵同シケレ氏又各差別ア

ルナリ

簡牘ハデカミナリ書トハ詳畧長短ノタカヒア

リ簡ハ畧也其大畧ヲ陳ル也ト云ヘリ手簡小簡

尺牘尺素八行ナド、云モ皆簡畧ノ稱ナリ尺牘

前ノ譯文ノ

司馬遷報任少卿書 李斯上秦始皇書 楊惲報

孫會宗書等ノ類

題跋書讀 題ト讀トハ唐ヨリ始ル跋ト書トハ

宋ヨリ起ル題ハ締也其名義ヲ審締ニスル也跋

ハ本也其文ニ因テ其本ヲ見スナリ書ハ其語ヲ

書スルヨリ云フ讀ハ讀ムニ就テ為ス故ニ讀ト

云フサレト四ノ者大抵同シナリ凡ソ詩文書

畫史傳等何レノ書モ或ハ覽テ感スル所アリ或

八人ノ請ヒ求ルニ因テ詞ヲ撰ミ、ソノ書ノ末ニ
 綴ルナリ、何レモ小品文ナレハ其辭專ラ簡勁ヲ
 主トス、題燕郭尚父圖 題蘭亭記 跋趙雲子
 畫 跋山谷帖 書李賀小像後 讀孟嘗君傳等
 ノ類ナリ又題辭ト云フアリ、此レハ前ノ四文ト
 ハ格別ナリ、皆卷首ニ題スル者ニテ、詳略モ亦異
 ナリ、孟子題辭 小學題辭ト如キ是ナリ
 表ハ釋名ニ下モ上ニ言フヲ表ト曰フ、文選李善
 ノ注ニ、表ハ明也標也ト云リ、サレハ表トハ事緒
 ヲ明白ニ顯ハシテ君上ニ告ルナリ、三代己前コ

レヲ敷奏ト云フ、秦ニ至テ改テ表ト為ス、漢禮儀
 ヲ定テ四品ニ分ツ、章ト云、表ト云、奏ト云、儀ト云、
 章ハ謝恩ナトニ用ヒ、表ハ陳事ニ用ヒ、奏ハ按刻
 ニ用ヒ、議ハ異事ヲ推覆レテ之ヲ進ル也ト云ヘ
 リ、漢魏己來都テ表ト云フ、表ノ体式亦種々アリ
 唐宋ハ四六文ヲ用キタリ、又笏記、書詞アリ、表ト
 ハ其詞繁簡ノ異ナルアルナリ 出師表 陳情
 表 讓婚表等
 原ハモト、訓ス、易經ノ原筮ノ原字ノ義ナリ、原
 ハ事物ノ本原ヲ推シ論シテ、根本ノ至理ヲ述ル

ナリ、淮南子ニ原道訓アリ、又韓文原人 原道
原鬼ナトアリ、後人コレニ依ル、大抵論説ニ似タ
ルモノナリ

辨ハワカツナリ、條理ノ能ク分ル、トナリ判也
別也ト注ス、サレハ辨ノ体タル言行事物ヲ執テ
其真偽是非ヲ察シ其理ヲ斷シ分ルナリ 桐葉
封弟辨 諱辨ナトヲ見テ知ルヘシ

解ハトクト訓ス、釋也判也説也ト注ス故ハ解ノ
文タル疑惑ヲ辨柝シ、紛難ヲ解剝スルヲ以テ主
ト為スト云ス、論説辨解ナト大抵相似タルモノ

ナリ、楊雄カ解嘲ノ文、此ノ体ノ始トス、獲麟解
進學解ナトアリ、又釋ト云フモ亦文ノ一体ナリ、
大抵解ト似タリ

記ハシルスト訓ス、物ニ對シテ其事理ヲ記スル
ナリ、文体モト叙事ニ属スレバ、亦議論ヲ錯
綜スルトアリ、独樂園記 醉鄉記 藍田縣丞廳
壁記ナト見ルヘシ、或ハ物ニ託シテ意ヲ寓シ、或
ハ係ルニ詩歌韻語ヲ以テスル等種々ノ体式ア
リ、又紀行文ハ旅日記ナリ
傳ハ人ノ事迹言行ヲ記載シテ後世ニ傳ルノ文

ナリ、傳ニ史傳アリ、家傳アリ、正体アリ、変体アリ、又托傳、假傳ナト、種々ノ体アルナリ、毛穎傳、郭橐駝傳

碑ハイレフミナリ、説文碑ハ石ヲ豎ツテ功德ヲ記ルスナリト云ヘリ、体ハ叙事文ナリソノ議論ヲ主トスル者ハ變体ナリ、山川城池顯人隱士ノ碑等ソレソレニ体格アルナリ、又碑陰文アリ、碑ノ背面ニ刻スル者ナリ、亦記トモ云フ、郭林宗碑文、韓文公廟碑、野廟碑、賦ハ六義ノ一ツニテ其事ヲ敷キ陳ヘテ直チニ

ソレヲ言フヲ賦ト云フ、古賦、俳賦、文賦、律賦ノ四体アリ、又頌ト云フモ亦六義ノ一ツナリ、詩ノ大序ニ頌ハ盛徳ノ形容ヲ美メテソノ成功ヲ以テ神明ニ告ル者也ト云リ、散文、韻文、種々ノ体アリ、又箴ト云ハ警シメノ文ナリ、箴ハ誡也ト注ス、醫家ノ箴石ヲ以テ病ヲ刺シ救フカ如キヲ云フ、大抵韻語ヲ用ユ、四箴、大寶箴等ノ如シ、此ノ他詩詞、歌行、贊述評語、命令檄諭、祭文祝文等、種々ノ体式アリ、今姑ク畧ス、文章ニ助辭アリ、助辭ハテニヲハナリ、凡ソ人平

常日用ノ言語皆コノテニヲハテ誤ラス、我レ知
 ラズマンロクニ言トルヨリシテ、我カ思フ¹モ
 人ニ聞トラル、ナリ、文章ノ助辭ト云フモ、猶此
 ノ日用言語ノ間ノテニヲハノ如シ、此テニヲハ
 纔カニ誤マラハ、我カ言フ事ノ何トモ分ラズ、言
 語ノ條理立ヌエハ、一向人ニハ聞取レヌ¹トナ
 ル、タトヘハ²劔ニテ³斷タリ履⁴ナドヲ着⁵タリト云
 フ¹ヲ、人ニ向テ語ラントスルニハ⁶劔⁷テ⁸斷タ履⁹
 着¹⁰タト云ヘハ、直ニ其意ノ聞人ニ會得シ分ル
 ナリ、此ノテト云ヒヲト云フカ即ケテニヲハニ

テ言フ者モ別ニ思案シテ後、其口ニ上ホスルニ
 ハ非ス、自然ニ知リテオルマ、言取レルナリ、若
 シ此ノテヲ誤マリテ、劔ヲ斷タ履テ着タナド
 ト言ハンニハ、我カ語ラント思フ意象ト事理ト
 懸隔シテ、一向ニ分ケモナキ妄語トナルナリ、助
 辭一タヒ誤マレハ文章モ亦讀ムヘカラサルモ
 ノテキルナリ、サレハ顔色聲音、今マ目ニ見ルカ
 如ク口ニ言フ如クニ書キ取ルハ全ク助辭ノ働
 ラキニアルナリ、助辭ヲ譯セシ書世ニ多シ、ソレ
 ソレ取テ熟讀シ、或ハ古人ノ用法ヲ徴シテ研究

セハ自ラ知ラル、ナリ

橘園先生曰ク、助字ヲ用ルニハ、先ツ其字義ヲ詳
ラカニスヘシ、若シ字義ヲ知ラスレテ、徒ニ古人
ノ用例ニノミ倣ハ、譬ヘハ其面ヲ識リテ其心
ヲ知ザルカ如シト云フ、サレハ助字ノ用キ方ヲ
知ルニハ、先ツ字義ヲ精竅スルル第一ナリ
又曰ク、文章ヲ書ニハ先ツ幽明ノ兩界ヲ知ルヘ
シ、人ノ身ニトリテ當面ニ目ノ及フ所ハ明界ナ
リ、目ノ及ハサル所ヲ心識ニカケテ想ビヤルハ
幽界ナリ、當面無語ト云テ、眼前明界ノ事ヲ記ス

ニハ、語辭ノ用更ニナキナリ、譬ヘハ當面ニシテ
云ヘハ、鷺白息脛短ト書クナリソレヲ心識ニカ
ケテイヘハ、白矣、白也、短矣、短也ナト、書ナリト
云ヘリ、此レ誠ニ助字ノ大端ナリ、棋園先生正當
無名ト云フヲ云ヘルハ、助字ヲ指レ云フニハ非
サレ氏、其意趣ハ似タルナリ、姑ラク左ニ舉ク
曰ク、今其人ノ目火ニ向テ居レハ、只此トノミ云
テ、火ヲ指レ云フ自カラ聞ユ、花ノ枝ヲ手ニ握リ
居レハ、只此トノミ云テ、花ヲ指レ云フ自カラ聞
ユ、奴僕ニ云付テ烟盆中ノ火入ニ火ヲ入レサセ

ントスルニ、只指ヲ以テ其火入ヲ指レ見スレハ、
 火ト呼ハズ氏火ヲ入ヨト云フハ聞トラル、モ
 ノナリ、故ニ正當無名ト云也ト云リ、譬ヘハ嵇康
 カ琴賦ノ序ニ、以為物有盛衰、而此無變滋味有厭
 而此不勑ト云カ如キ、其物其名ヲ一ソコニ掲
 ケ出シテ言ハズ氏、只此無變此不勑トノミ云テ、
 其音聲ノトタルト明白ニ知ル、ナリ、正當無名
 トハ正ニコレヲノ謂ナリ
 文ノ工夫助字虚字ノ間ニ在リト云フ凡ソ文字
 ニ三ノ分チアリ、助字也、虚字也、實字也、實字トハ

雨露草木、金石、布帛ノ類此レハコレ定リタル名
 稱ニテ、雨ハ雨、石ハ石、誰カ言テモ同シトニテ、巧
 拙ノ着スヘキナレ、故ニ工夫ハ助字虚字ニ在リ
 ト云フ、虚字ハ見、覽、觀、視ノ類ナリ、助字ハ為、矣、也、
 乎ノ類ナリ、此レハ人ノ意象ニ用ユヘキ理ヲ
 立テ、用ユルモノナル故ニ、用ヒ方ニ巧拙ヲ生ス
 ルナリ
 サレハ助辭ト云フ者、文章ニ於テ尤モ大切ナル
 者ニシテ、又識リヤスキ事ニ非ス故ニ為矣兮也
 乎ノ類ソノ口ニ載テ訓讀スヘカラサル者ニ至

テハ唯ソノ意義ヲ以テ解スルカ故ニ先哲モ往々ソノ解ニ難スルヲ以テマ、是等ノ類更ニ意義ナシナド、云フ解ヲ下シタルアリ、此レ思ハルノ甚レキナリ、戲言ナレ氏思フヨリ出ツ、戲動ナレ氏虞ルヨリオコルト云ヘル如ク、タトヒ一字半句ナリ氏、豈意義ナクシテオカルベキノ理アラシヤ、若シ果シテ意義ナシトセハ圈ヲ書キテ置テモスムヘキナリ

和讀要領ニ拂^テ聲^ノ之^ノ珊々神女ノ之ノ字、又有乎生有乎死 莊子ノ乎ノ字、為^ル及^カ也、妻者是^レ為^ル白^カ也、母

檀ノ也ノ字、又有教存、為於其間莊子 鮮矣仁、論語及ヒ古者、今者ナト云フ為矣者ノ字ノ類此他尚皆何トモ讀レス意義ナシト云ヘリ、コレ其文理ノ在ル所ヲ詳ニセサル故ナリ、助辭譯通能ク此ノ誤マリヲ辨セリ取テミルヘシ、此等ノ類要領ニカキラス、又文家必用ナト云書ハ、フルクヨリ世ニ流布スレ氏、極メテ杜撰ナル説ノミニテ一向取ルニ足ラサルナリ、其外用字格、筌蹄集、文語解ナト云フ者、皆誤謬ナキヲ能ハス、亦以テ助辭ノ難キヲ見ルヘシ、コレ輕々シク先輩ノ書ヲ議

スルニ似タレトモサニハ非ス其書ヲ取テ研究
セハ、自然ニ知ル由アルヘシ

叙事ノ文ニハ助字少ナク、議論ノ文ニハ助字多
シ、亦コレ自然ノ勢ヒノミ、故サラニシテ然ルニ
非サルナリ、助語之在文也、多固不可少固不可ト
云フモ、多少皆不可ナリト云ニ非ス、凡ソ助字ノ
文ニ在ルモト多少ノ拘ハルベキニ非ス、故ニ多
キハ多々益善ク、少ナキハ僅々更ニ害ナキ、コレ
之ヲ文ト云フ、唯ソノ多カルヘカラスシテ多ク
少ナル可ラスシテ少ナキ、乃々之ヲ不可ト云

フノミ

凡ソ辞ニ緩急アリ、輕重アリ、主客アリ、動靜アリ、
自他内外、体用來往等ノ模様ノ立テ、種々ノ神氣
ノ働ラキヲ寫シ出スモノハ、皆助字ノ繁簡多少
其度ニ合シテ働ラクニ非サレハ、文章ニ右ノ摸
様ヲ寫シ出スヲハ能ハサルナリ

助字ノアルヘキ處口ハ、幾字連ナリ用キテモ累
ネカケテモ、更ニソノ多キヲ嫌ハス又無ルヘキ
處ニハ、一字ヲ置カスレテ更ニ害ナキナリ、一ト
通り文字ノ上ツラノミヲ看テ、細カニ文理ヲ拆

セザレハ、其文中ニ在ル所ノ事理ヲ、審ラカニ解
 シ得ルヲハテキ、又道理ナリ、トカク人ハ細心ニ
 書ヲ讀ミ、意象ニ深カラサレハ文字ノ談ハナシ
 難キナリ、サテ助字ノ多少ト云ヘハ、タトヘハ孟
 子ニ寡人盡心、為耳矣、又左傳ニ独吾君也乎哉、論
 語ニ女得人為耳乎哉、ナトノ類皆連用シテ一句
 ノ中半ハ助字ニシテ、更ニ多キニ害ナキナリ、或
 ヒハ論語ニ有酒食先生饌、又告諸往而知來者ト
 云ヘルカ如キ、饌ノ下ニハ為ノ字ヲオキ、來者ノ
 下モニハ也トカ矣トカアリテヨキ様ニ見ユレ

凡ソレヲ皆省フキタルハ、實ハ無クテヨキ處ナ
 レハナリ、サレハ文章ヲ學フニハヨクヨク助字
 ノ吟味ヲ為ヘキナリ
 文章ニ雅俗アリ、故ニ正文中俗語ヲ混シ用ユル
 ハ甚ハタアレ、總テ詩ハ詩ノ語アリ、尺牘ハ尺
 牘ノ語アリ、韻文散文各ソノ体語アリ、相混用ス
 可ラス、和文ト雖モ猶然リ、雅言ノ文章ヲ書クニ
 一語ニテモ俗言ヲハ混用ス可ラス是ヲ失体ノ
 文ト為ス、文モシ体ヲ失ハ、タトヒ其精工ヲ盡
 スト雖モ、之ヲ文ト謂フ可カラスト云ヘリ

文ニ花實アリ偏廢スヘカラス、モシ花アツテ實
 ナケレハ浮文ナリ、實アツテ花ナケレハ野文ナ
 リ、浮文ハ用ルニ任ヘス野文ハ觀ルニ耐ヘス、文
 章則チ箇ノ花實ヲ具フルヲ要ス然レモ用ルニ
 任ヘサルノ野文ハ時ニ用ヲ濟ス事アリ、然ラハ則
 チ其浮ナランヨリハ寧ロ野ナルヘシ
 文戈遲速アリ、速カナルモ未タ必ス巧ミナラス
 遲キモ未タ必ス拙ナカラス、枚臯ノ敏長卿ノ淹
 竟ニコレ強ユベカラサルモノカ楊子雲曰軍旅之際戎馬之間

飛書、駢用、枚臯、郎朝之下、朝廷之中、高文、典冊、用相、類

文章字ヲ積テ句ヲ成シ、句ヲ積テ章ヲ成シ、章ヲ
 積テ篇ヲ成ス、篇中ニ冗章アル可ラス、章中ニ冗
 句アル可ラス、句中ニ冗字アル可ラス、四ノ者一
 モ其法ヲ失ヘハ文章ヲ成サルナリト云フ
 詩モ亦文ナリ、凡ソ詩ヲ讀テ詩トナシ、文ヲ讀テ
 文トナスハ、是レ讀ノ當レルモノナリ、然レモ往
 ヲ告ケテ來ヲ知ルハ學ノ道ナリ、故ニ能ク讀ム
 者ハ詩モ亦文ナリ、文モ亦詩ナルヘシ、李艾山カ
 秋星閣ノ詩話ニ、詩ヲ學フ八字ノ訣アリ、是唯詩

ノミニ非サルナリ、文ヲ學フモ亦此ニ外ナラス、
 其言祇ニ初學ノ為ニシテ發ス極テ切實ナリ、訣
 ニ曰ク多讀多講多作多改ノミ、先ツ是非ヲ問ヒ、
 後ナニ工拙ヲ分ツ、初學須ラク日ニ一首ヲ課シ、
 或ハ日ヲ間テ、一首ヲ課スヘシ勤メ作ル片ハ
 心專ニ徑熟シ、漸ヤク門路ヲ開ク、否ラサレハ則
 チ勉強支吾シテ、篇ヲ終ルヲ幸ヒト為ス、未タ是
 ヲ云フヘカラス、工拙ヲ論スルニ違アラシヤ、然
 レ氏多ク古人ノ詩ヲ讀ムニ非サレハ即チ多ク
 作ルモ亦用ナシ、譬ヘハ源ナキノ水ノ如ク、立ト

コロニ其涸ル、ヲ見シ、夫レ多讀ヲ貴ノ者ハ意
 調ヲ謹襲シ、字句ヲ偷用セント欲スルニ非ス、惟
 我レノ性靈ニ觸發スルニ取ルノミ、但古人ノ詩
 ハ思理精妙ニ、法則嚴密ニ、淺衷俗學ノ得テ窺
 フ可キニ非ス云々、是故ニ多講ヲ欲ス、苟モ草々
 ニ讀過セハ、漫ニ蠟ヲ嚼ムニ同シ、腹笥ニ盈ツル
 ト雖凡何ノ益カアラシ、宜シク其ノ管ヲ握リ思
 ヒヲ運ラス、烟霧ニ墮ツルカ如クナルヘシ、若シ
 作テ改メサルハ尤モ不可トナス、安ソ能ク筆ヲ
 落スゴトニシテ便チ好ランヤ、能ク改ムレハ則

夫瑕モ瑜ヲ為スヘシ瓦礫モ珠玉ト為スヘシ云々、子美ハ詩聖ナリ、猶オ改ヲ以テシテ後ニ工ミナリ、此レヨリ下モハ知ルヘキナリ云々、一字ノ疵通篇ノ累ヒラ為スニ足ル審ラカニセサル可シヤ、苟モ此ノ訣ニ依ラハ、詩ノ進マサルヲ患ヘサルナリ以上其要、歐陽脩ノ三訣文ヲ學フノ法盡セリ、加フルニ此ノ八訣ヲ以テシテ益々詳悉ナリ、文ヲ學フノ法復遺訣ナカラント覺ユルナリ

歌モ亦文ナリ、八雲御抄ニ莊子ノ輪扁ノ説ヲ引

テ、歌モ亦コレト同シ、心ニハ好モ悪キモ知ルモノカ、人ニ教ユヘキカラナレト云レタリ、詢トニ然ルコトアルナリ、莊子天道篇ニ桓公書ヲ堂上ニ讀ム、輪扁輪ヲ堂下ニ斲ル、桓公ニ問テ曰、久公ノ讀ム所、何言ク、公曰、久古ヘ聖人ノ言ナリ、曰、久、然ハ則チ古人ノ糟魄ノミ、臣イマ臣ノ事ヲ以テ之ヲ觀ルニ、輪ヲ斲ルノ法、之レヲ手ニ得テ心ニ應ス、口言フニ能ハス、教アリテ其間ニ存ス、臣以テ臣ノ子ニ喻ス、子能ハス、臣ノ子モ亦之レヲ臣ニ受ル、子能ハス、是ヲ以テ行年七十、老テナオ

輪ヲ斲ルト云ヘリ古人ノ文ハ輪扁ナリ、体法格式備サニ在テ、後覺ノ取り去ルニ任セ、後覺ヲシテ巧ミナラシムルヲ能ハス、後覺自ラ巧ヲ為スノミ
 書ヲ讀ムハ文ノ為メノミニ非サルナリ而テ文ヲ學フハ書ヲ讀マサルヘカラス、杜子美カ讀書破萬卷、下筆如有神ト云ヘル信ニ千古ノ格言ナリ、故ニ歐陽脩モ、作文無他術、唯讀書多則為之自工ナリト云リ、兎角文章ヲ書キ習フニハ、先ッ博ク書ヲ讀サルヘカラス、博ク書ヲ讀ミ多ク我ニ

蓄ハヘサレハ、文ニ臨ンテ胸中詞材乏シク、言フ所口陋劣虜淺ニシテ、讀ムニ耐ヘサルナリ、サレハトテ只管讀書ニバカリ努カシタリトテソレニテ文章書キ得ラル、者ニハ非ス、謝在杭モ、記誦如流寸觚莫展ト云ヒ、讀破萬卷不能下一字ト云ヘリ、故ニ北山先生モ文章ニ黽勉セサレハ、身ヲ終ルマテ文ノ臧否ヲ認ムルヲ能ハス、其著述スル文章全ク觀ルニ足ラスト云テ、博物ト文章ト關ラザルヲ云ヘリコレ古人三多ノ訣アル所以ナリ

者多、做多、商量多、即チ歐陽脩カ三多ノ訣ニテ、人皆知リテ居ルヲナレ、其スラ徒ニ知リタルノミニテ、我モ實ニ其言ヲ踐ミ行ハント薦ク志ス者少レナリ、如此クニテハ能ク其言ヲ知タルトハ云フ可ラス、文章ヲ學ノ法實ニ此ノ三多ヲ出ス

初學文語卷之上 終

